

C—38 鹿児島県某女子高校生の体型調査  
——制服サイズの問題点の研究——

鹿児島女短大 志賀 フヂ  
加地 悦子  
宮崎 京子  
○平山 千賀  
住本 守央

1. 当校の付属女子高校生、短大学生の制服は、毎年某大手メーカーのサイズを12種類用意していても、生徒の体型に不適當な種類が多く、満足されていない。このため、女子学生の体型を調査分類し、既製制服サイズの分類との対比を行ない、消費者の側からみて、現段階において、生徒の体型に適したものを、どうして求めたらよいかの問題点をさぐることを試みた。

2. (イ)調査期間は昭和43年7月12～15日 (ロ)調査対象は、鹿児島女子短大付属女子高校生2300名 (ハ)調査用計測機械は、「シルエッター」写真機(210mm大口径レンズ600W, ストロボ同調, クイックコピーシステムによる自動現像, 酒井特殊カメラ製)を使用し、被写体の正面と側面を実物1/10に縮尺された写真図を一枚のコピー紙上に現像する方法を採用した。

3. (イ)基準になる体型を数種定めて、被験者が、どのような分布になるかを調査し、その資料により、現在生徒が着用している制服サイズとの対比を試み、当校に必要なサイズと、不必要なサイズとの問題点をさがすことができた。(ロ)今後1年から3年までの体型の変化を予想し、最も変化の多い部分の被服構成上に考慮を必要とする問題点をさがすことを試みた。(ハ)今後、被験者成長過程について、長期にわたる追跡調査が必要なことが明らかとなった。